柏 市
第 六 次 総 合 計 画
基 本 構 想

柏 市

目 次

第 1 章	はじめに	1
1	策定の背景	1
2	計画の位置付け・構成	2
3	計画の期間	3
第 2 章	基本構想	3
1	基本構想とは	3
2	将来の姿	4
3	基本的な目標	4

第1章 はじめに

1 策定の背景

本市は、今後10年間程度、人口の増加が続くものと見込まれています。

しかしながら、少子高齢化がさらに加速していく中で、市民の生活とまちの活力を保っていくために、地域経済の振興や担い手の確保をどう進めていくかという大きな課題に直面しています。

また、まちが成長する過程で集中的に整備された各種公共施設の老朽化が進み、これらの施設の更新や、少子高齢化に伴う需要の変化に合わせた効率的かつ効果的な整備を図る必要に迫られています。

これまで本市は、人口の増加とともに小売業を中心とする産業が発展し、税収の増加により行政サービスの向上が図られることで市民の生活の利便性や快適性が高まり、さらなる人口の増加につながるという望ましい循環により発展をしてきましたが、このような“従来型のベッドタウン”としての成長サイクルは限界を迎えようとしています。

(1) 人口動態

2035年（令和17年）に人口のピークを迎えるとともに、年少・生産年齢人口の割合は低下し、2040年（令和22年）には老年人口の割合が全体の3分の1を占めるものと推計されています。

また、出生者数と死亡者数の差である“自然増減”については、2017年（平成29年）に死亡者数が出生者数を上回る“自然減”に転じ、それ以降は“自然減”が続いている一方、転入者数と転出者数の差である“社会増減”は、転入者数が転出者数を上回る“社会増”の状況が続いた結果、概ね人口が増加し続けています。

なお、2018年（平成30年）の推計においては、2025年（令和7年）に人口のピークを迎える見込みであったものの、2023年（令和5年）の推計においては、この

“社会増”の影響もあり，2035年（令和17年）まで人口の増加が続き，その後，2055年（令和37年）頃までは人口の減少が極めて緩やかであると想定されます。

（2）財政状況

人口の増加が続いている間は税収の増加が見込まれるものの，本市の税収構造が個人に依存するものとなっていることから，高齢化の進行に伴う労働力人口の減少を含む，将来的な人口の減少局面を迎えた際には，税収が減少に転じることが懸念されます。

一方，高齢化の進行に伴い，今後も扶助費などの社会保障関係費の支出が増加する見通しとなっています。

また，地域経済に目を向けると，昼夜間人口比率や地域内所得の状況から，市外で就労する人がもたらす収入への依存度が高く，市内で就労する人が少ない状況にあることがわかります。

（3）公共施設の整備状況

本市の学校，コミュニティ施設などの公共施設は，その大半が昭和40年代から50年代にかけての人口急増期に整備されたものであり，整備後50年から60年の期間を経過している状況にあります。

加えて，道路，上下水道などのインフラ施設についても，今後老朽化が一気に進行することになり，第六次総合計画の計画期間内に，これらの公共施設やインフラ施設の更新費用の支出が集中することが見込まれます。

2 計画の位置付け・構成

（1）計画の位置付け

総合計画は，市政を総合的かつ計画的に進めるための指針として，本市が策定する各種の計画のうち最上位の計画と位置付けられており，本市が目指すまちづくりを実現するための施策を体系的に示したものとなっています。

また，本市がまちづくりの担い手である市民や本市に関わる多様な人々と共有すべきビジョンを示すことで，これらの

方々の参画を促すコミュニケーションツールとしての機能を併せ持ちます。

(2) 計画の構成

第六次総合計画は、基本構想と基本計画による2層構造とし、基本構想では、主に本市が目指す将来の姿及びその実現のために達成すべき基本的な目標を示し、基本計画では、基本構想を踏まえ、主に施策の方向性を体系的に示します。

また、基本計画においては、本市が取り組む施策の内容を網羅的に定めるとともに、基本的な目標を達成するために特に寄与すると考えられるテーマ（＝「重点テーマ」）について重点的に取り組む方向性を示すことにより、本市が目指す将来の姿の実現を図ります。

3 計画の期間

第六次総合計画の計画期間は、本市における人口減少への転換点を迎える時期を踏まえ、基本構想については、2025年度（令和7年度）からの10年間とする一方、基本計画については、社会経済情勢の変化に伴って新たに生じる課題などに柔軟かつ臨機応変に対応することを想定し、前期と後期の各5年間に分けています。

また、「重点テーマ」は、基本計画の前期・後期のそれぞれにおいて定めるものとし、後期の基本計画における「重点テーマ」は、前期の5年間での取組の結果や新たに生じた課題などを踏まえ、改めて検討します。

第2章 基本構想

1 基本構想とは

将来を見据えたまちづくりの目標として本市が定めるもので、市政運営を総合的かつ計画的に進めるための基本となる考え方です。

目指すまちの「将来の姿」と、「将来の姿」を実現するために達成すべき「基本的な目標」を合わせて、基本構想と呼びます。

2 将来の姿

柏に関わる一人ひとりが想いを実現できるまち
～多様な価値や人々がつながり，新たな価値の創造に挑戦～

柏のまちは，こうありたい

誰かの新たなチャレンジを応援し，自らも挑戦し続けるまち

社会共通の課題の解決を目指すことで，日本を，世界をリードしていくまち

どのライフステージにある人も希望を持って過ごせるまち
人々が安心感，充実感，満足感を得ながら暮らせるまち

柏が持つ個性と柏に関わる人々がさらにつながること
これまでになかった新たな価値が生まれるまち

みんなが想いを実現するきっかけをつかむことができるまち
であるように，住む人とだけでなく，柏に関わるすべての人とまちづくりを進めていきたい

3 基本的な目標

(1) もっと，創造的なまちへ

先進的な教育，医療，商工業，みどりある都市空間などの柏の強みと柏に関わる人々の多様性をエネルギーとして，社会の急速な変化に伴って生じるさまざまな課題を解決することで，新たな価値に出会えるまちを目指します。

(2) もっと，居心地のよいまちへ

子どもからお年寄りまで，多様な人々がつながるコミュニティとさまざまな居場所が生まれることで，柏に住み，働き，学び，憩い，遊びに来る誰もが，健やかに育ち，安心して過ごし，年齢を重ねていくことができるまちを目指します。

(3) もっと，地域の個性が輝くまちへ

豊かな自然が感じられる手賀沼をはじめとする自然環境と，都心へのアクセスのしやすさや市内で生活が完結する利便性がバランスよく共存する柏で，まちの発展の中で築かれてきた文化や歴史を引き継ぎ，さらに磨きをかけるまちを目指します。